

整備基準チェックリスト

※太枠の中を記入してください

施設 の 名 称	主 要 用 途
施設 の 所 在 地	
記 入 者 の 氏 名	電 話 番 号

整備適用の別	整備箇所	整備基準	設計概要	適合状況	
	①アプローチ	(1) 道路から建物入口まで歩行者通路を設ける (2) 歩行者通路と自動車通行路は原則分離 (3) 通路に段差を設けない（段差が残る場合はスロープを設ける）	歩行者通路 段差 スロープ	有・無 有・無 有・無 cm	適・否 適・否 適・否 適・否
	①有効幅員	120 cm以上		cm	適・否
	②通路面の仕上げ	すべりにくく平坦な仕上げ			適・否
	③視覚障害者誘導ブロック	敷地入口から建物入口まで敷設	誘導ブロック	有・無	適・否
	④歩道との境界	段差が生じないよう高さをあわせる	段差	有・無	適・否
	②駐車場	(1) 玄関付近等に障害者専用（又は優先）の駐車スペースを設ける	障害者用駐車スペース	台・無	適・否
	①スペース	車体スペース両側に幅 140 cm以上の乗降用スペースを設ける 車体スペース床面に障害者シンボルマークを塗装標示し、乗降用スペースを斜線で塗装標示する	乗降用スペース シンボルマーク標示 乗降用スペース標示	cm 有・無 有・無	適・否 適・否 適・否
	④床仕上げ	滑りにくく平坦な仕上げ	材質：		適・否
	③玄関廻り（外部出入口）	(1) 障害者等が支障なく出入りできるよう配慮する (3) 玄関ドアの前後に車いすの回転に必要なスペースを設ける	回転スペース	有・無	適・否
	②玄関マット	マットは埋込式とし、ハケ状のものは使用しない			適・否
	③風除室・ひさし	風除室を設ける場合は、感知域間を 100 cm以上設ける	風除室 感知域間の間隔	有・無 cm	適・否
	④玄関ホール	玄関ホールに設ける受付カウンター等は障害者の利用を考慮する			適・否
	⑤標示・案内	建物概要等を示す掲示・案内板を見やすくかつ通行の障害にならないよう設置する	掲示・案内板設置	有・無	適・否
	⑥誘導	玄関から受付まで視覚障害者誘導用床材で誘導する	誘導用床材設置	有・無	適・否
	⑦その他の屋外出入口	主要な出入口に準じる、又は障害者の利用できる出入口を明示する	主要な出入口に 準じる・準じない 障害者出入口明示	有・無 有・無	適・否 適・否
	④スロープ（斜路）	(1) 通路面に段差がある場合はスロープを設ける	段差 スロープ	有・無 有・無	適・否 適・否
	②有効幅員	120 cm以上（屋内）	有効幅員	cm	適・否
	③踊場等	高低差 75 cmを超えるごとに踊場（長さ 150 cm以上の水平部）を設ける スロープの始点・終点・交差部分等に踊場を設ける	高低差（最大） 踊場 高低差 水平部の長さ 踊場設置	cm 有・無 cmごと cm 有・無	適・否 適・否 適・否
	④床仕上げ	滑りにくく平坦な仕上げ 濡れる恐れのある部分は特に配慮する	材質：		適・否 適・否
	⑤立ち上がり	5 cm以上の立ち上がりまたは側壁を設ける	立ち上がり 側壁	cm・無 有・無	適・否
	⑥手すり	原則として両側に連続して取り付ける 始点・終点に 30 cm以上の水平部分を設ける	手すりの設置 水平部分	両側・片側・無 cm・無	適・否
		⑤出入口（戸）			
①有効幅員		主要な出入口 100 cm以上（これによりがたい場合は 85 cm以上）		cm	適・否
②形式		回転ドアは用いない			適・否
④開き戸		閉鎖作動時間を十分確保したドアチェックを設け、できるだけ軽くゆるやかに開閉するよう配慮する 開き勝手方向により多くのスペースをとる			適・否
⑤自動ドア		開き戸は避ける 速やかに開き、開放時間を十分確保する 開閉起動装置の感知域をできるだけ広げる			適・否 適・否 適・否

整備適用の別 ◎：整備基準に適合させることが必要な箇所 ○：整備基準に適合させることが望ましい箇所 ー：整備の不要な箇所
※各整備箇所中の整備基準は、要綱中の★（優先的に配慮すべき事項）についての記載となります。

整備適用の別	整備箇所	整備基準	設計概要	適合状況
⑥廊下（屋内廊下）	①有効幅員	120 cm以上（これによりがたい場合要所に140 cm以上確保）	幅員 要所に確保 cm cm・無	適・否
	②形状	床面に段差を設けない。やむをえない場合はスロープを設ける 壁面からの突出物を少なくするよう配慮する	段差 スロープ 有・無 有・無	適・否 適・否
	③床仕上げ等	濡れても滑りにくく平坦な仕上げとし、転倒したときに衝撃の少ない材料	材質：	適・否
	④手すり	必要に応じて手すりを設ける	手すり 有・無	適・否
	⑧照明	できるだけむらなく明るくする		適・否
	⑨廊下への出入口	原則引き戸又は内開き戸 外開き戸の場合は廊下の通行を妨げないよう配慮する	戸の形式：	適・否 適・否
	⑩視覚障害者誘導用床材	要所に敷設する（エレベーター前・便所入口等）	設置箇所：	適・否
⑦階段（屋内）	(1)直階段又は折れ階段とし、らせん階段や回り階段は避ける		階段の形式：	適・否
	①有効幅員	原則120 cm以上	cm	適・否
	②蹴上げ・踏面	蹴上げ16 cm程度、踏面30 cm程度、蹴込み2 cm以下（エレベーター等が利用できる場合は適用除外） 同一階段では蹴上げ、踏面の寸法を一定にする 蹴込み板は必ず設け、段鼻は突き出さないようにする	エレベーター等の利用 蹴上げ 踏面 蹴込み 可・不可 cm cm cm	適・否 適・否 適・否
	③手すり	原則として両側に連続して取り付ける 手すりの端部、踊場等に30 cm程度の水平部分を設ける	手すりの設置 水平部分 両側・片側・無 cm・無	適・否 適・否
	④踊場	勾配や段差を設けない	踊場の勾配・段差 有・無	適・否
	⑤床仕上げ	濡れても滑りにくく平坦な仕上げとし、転倒したときに衝撃の少ない材料	材質：	適・否
	⑥すべり止め	段鼻にノンスリップなどのすべり止めを設ける 踏面、蹴込み板の面をそろえる	すべり止め 有・無	適・否 適・否
⑧手すり	①種別 ・誘導用の手すり（廊下、階段、スロープなど） ・移乗等動作補助用手すり（便所、浴室等）	取り付け高さは1本の場合80 cm程度、2本の場合65 cm及び85 cm程度とし連続して取り付ける 動作に応じて水平・垂直に取り付ける	1本の場合： 2本の場合： 水平手すり 垂直手すり cm cm cm 有・無 有・無	適・否 適・否 適・否
	②形状	外径4 cm（小児用3 cm）程度	外径 cm	適・否
	③壁との関係	壁とのあき5～6センチ程度 手すりの下側で支持する	壁とのあき 支持方向： cm	適・否
	④端部	下方又は壁面方向へ曲げる	端部の方向：	適・否
	⑨便所（車いす用）	(1)車いす使用者が利用できる便所を1箇所以上設ける (3)車いす使用者が利用する便所は、わかりやすく利用しやすい位置に設置し、一般便所と一体的に計画する		車いす用便所の設置数 箇所
①便所の大きさ		原則車いすで回転できるスペース（直径150 cmの円が内接できる程度）を確保する 広さ200 cm×200 cm（A型）又は160 cm×200 cm（B型）	回転スペース A型・B型・その他（ × cm） 有・無	適・否 適・否
②出入口		通路、出入口は段差等障害物がないよう配慮する 有効幅員85 cm以上	段差等 有効幅員 有・無 cm	適・否 適・否
③便器		腰掛式の床置き式又は壁掛式 床置き式の場合前面トラップ部分に車いすのフットレストがあたりにくい型のものとする 便座の高さはふたのない状態で40～45 cm 便器の位置は、正面からアプローチを確保できるものとし、側面移乗のできるものとする	便器の形式： cm	適・否 適・否 適・否
⑤洗浄装置		便座に腰掛けたまま、又は車椅子に乗ったまま利用できる位置に大型のレバー式、くつぺら式押しボタン、光感知式など操作しやすい形状のものとする	洗浄装置の形式：	適・否
⑧汚物入れ		一般のものより大きく、手の届く範囲に設ける		適・否

整備適用の別	整備箇所	整備基準	設計概要	適合状況
	①標示	便所の入口に障害者シンボルマークを取り付ける 使用中の標示は施錠と連動させ、目に付きやすい位置に設ける 建物内の各所に車いす用便所の位置を標示し、誘導する	シンボルマーク標示 有・無 誘導標示 有・無	適・否 適・否 適・否
	⑫床面仕上げ	濡れても滑りにくい仕上げとする	材質：	適・否
	⑩便所（一般用）			
	②手すり	大便器のうち少なくとも1箇所には手すりを設ける 小便器のうち出入口に一番近いものに、両側及び前方胸の位置に手すりを設ける	手すり設置 箇所・無 手すり設置 有・無	適・否 適・否
	③床仕上げ	濡れても滑りにくい仕上げ	材質：	適・否
	④標示	男女別の標示、便所の位置などわかりやすく標示する。また点字による標示を行う。	標示 有・無 点字標示 有・無	適・否 適・否
	⑪洗面所	(1)障害者等の利用を考慮した洗面所を1箇所以上設ける		箇所・無 適・否
	①洗面器	車いす用洗面器の下部にはひざや足元が入るスペースを設ける 車いす用洗面器の高さは下端65cm程度とする	下部スペース 有・無 下端の高さ cm	適・否
	②手すり	歩行困難者が使用する洗面器は、左右に寄りかかれるようにする		適・否
	③水洗器具	レバー式・光感知式など簡単に操作できるものとする	水洗器具の形式：	適・否
	④トラップ	横引きタイプ（Pトラップ）とする	トラップの形式：	適・否
	⑤鏡	車いす洗面器の鏡は大型のものを使用し、床上90cm以下の高さから上方へ65cm以上の長さのものを取り付ける	鏡の設置 有・無 下端の高さ cm 鏡の長さ cm	適・否
	⑥床仕上げ	濡れても滑りにくい仕上げとする	材質：	適・否
	⑫浴室（①～④は車いす使用者の利用が多い場合）			
	①浴室の床	浴室床面と脱衣室床面は同一レベルとする		適・否
	②出入口	有効幅員85cm以上	有効幅員 cm	適・否
	④浴槽と洗い場の関係	浴槽のエプロン高さ、洗い場の高さは40～45cm程度とする	エプロン高さ cm 洗い場高さ cm	適・否
	⑤手すり	浴槽、洗い場の周囲に手すりを設ける 手すりは水平・垂直両タイプのものとし、洗い場と浴槽の移動などの動作の場合は垂直タイプとする	手すり 有・無 水平手すり 有・無 垂直手すり 有・無	適・否 適・否 適・否
	⑥床仕上げ	濡れても滑りにくく、体を傷つけない仕上げ	材質：	適・否
	⑦浴槽の床仕上げ	滑りにくく、体を傷つけない仕上げ		適・否
⑩浴槽	深さ55cm程度	深さ cm	適・否	
	⑬シャワー室・脱衣室			
	②手すり	室内の周囲に水平に設ける。必要に応じ垂直に設ける	水平手すり 有・無 垂直手すり 有・無	適・否 適・否
	③出入口	主出入口の幅員85cm以上 通路、出入口は段差等障害物がないよう配慮する	幅員 cm 段差等障害物 有・無	適・否 適・否
	④床仕上げ	濡れても滑りにくい仕上げ	材質：	適・否
	⑤水栓器具	レバー式など簡単に操作できるもの	水栓器具の形式：	適・否
	⑥脱衣ベンチ	更衣室には脱衣ベンチを置く 高さは40～45cm程度	脱衣ベンチ 有・無 高さ cm	適・否 適・否
	⑦脱衣ロッカー	車いすでも使用できる高さに取り付け、下部は車いすのフットレストが入るようスペースを確保する 補装具を入れるため大きめのものを設ける	下部スペース 有・無	適・否 適・否
	⑭客室・寝室	(3)車いすでも使用可能な洗面所、浴室を併設する		適・否
	①スペース	最低2ベッド分が並べられていて、車いすでも移動・回転できるスペースを確保する	ベッド数 台 回転スペース 有・無	適・否
	②ベッド	ベッドの高さは40～45cm程度とする 側面に120cm以上のスペースを確保	ベッドの高さ cm 側面スペース cm	適・否 適・否
	③床	段差等障害物がないよう配慮する	段差等障害物 有・無	適・否
	④床仕上げ	濡れても滑りにくい仕上げとし、転倒したときに衝撃の少ない材料を用いる 毛足の長いじゅうたんなどは避ける		適・否

整備適用の別	整備箇所	整備基準	設計概要	適合状況
	⑤諸設備	車いすでの使用に適する高さ及び位置とする		適・否
	⑥便所・洗面所・浴室	浴槽のわきに、車いすから乗り移ることができ、浴槽に滑りながら移動できるような平面を設ける 照明は、ベッド上からも点滅できるものとする	平面 有・無	適・否 適・否
	⑮観覧席・客席	(1)出入口から容易に到達でき、かつ見やすい位置に車いす使用者用の客席スペースを設ける	車いす用スペース 有・無	適・否
	①車いす使用者用スペース	1席あたり間口90cm、奥行き150cm程度	間口 奥行き cm cm	適・否
	②難聴者用集団補聴装置	磁気ループ、FM送受信装置など集団補聴装置を設ける	集団補聴装置の設置形式： 有・無	適・否
	⑯屋上・バルコニー	(3)通行動線上は段差を設けない	段差 有・無	適・否
	①スペース	車いすで回転できるスペースを確保する	回転スペース 有・無	適・否
	②床仕上げ	濡れても滑りにくい仕上げ	材質： 有・無	適・否
	⑰エレベーター	(1)エレベーターは可能な限り設置する (2)少なくとも一基は障害者が一人でも利用できるようにし、障害者の利用する出入口近くに設置する	エレベーター 台・無 内障害者利用可能 台・無	適・否 適・否
	①エレベーター前のスペース	エレベーターの前に車いすの回転できるスペースを確保する	回転スペース 有・無	適・否
	②乗り場ボタン	高さ90～100cmに、操作しやすくランプ内蔵の専用乗り場ボタンを設ける	専用乗り場ボタン 高さ 有・無 cm	適・否
	④建物床とカゴの関係	建物床とカゴの間隔は3.0cm以下 段差を無くするため自動着床調整装置を設ける	隙間 cm	適・否
	⑤カゴの大きさ	内法寸法：幅140cm、奥行き135cm以上とする (11人乗り以上)	幅 奥行き cm cm	適・否
	⑥カゴの内部	カゴ奥の両側面に専用操作盤を設ける 操作盤は横型とし、車いす使用者の手が届きやすく、ボタンは大きめとする 両側面、正面壁に手すりを設ける 正面壁に割れにくい鏡を取り付ける 緊急呼び出しボタン等は車いす使用者の手の届く位置に設ける 光電装置は2ヶ所を通すよう設置する 障害者専用ボタンが押されたときは戸の開放時間が長くなるようにする 音声による案内を整備する	専用操作盤 ボタン配置 両側・片側・無 縦・横 手すり 鏡 有・無 有・無 音声案内 有・無	適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否
	⑦標示	階数・着階表示等を音声・点滅灯などにより行う (カゴ内・ホール) 点字標示を行う 障害者の利用しやすいエレベーターに障害者シンボルマークを標示する	シンボルマーク標示 有・無	適・否 適・否
	⑱エスカレーター		エスカレーター設置 有・無	
	②乗り降り口まわり	長さ100cm以上の固定手すりを設ける	固定手すり cm・無	適・否
	③移動手すり	乗り口、降り口とも120cm程度の移動手すりを設ける	移動手すり cm・無	適・否
	④ステップ	水平部分3枚程度、定常段差になるまで5枚程度	水平部分 定常段差まで 枚 枚	適・否
	⑥速度	30m/分以下	m/分	適・否
	⑲その他の設備			
	【カウンター・記載台】		カウンター設置 有・無	
	①カウンター下部スペース	高さ65cm程度、奥行き45cm程度	高さ 奥行き cm cm	適・否
	【公衆電話】	公衆電話を多数設置する場合、障害者用電話を1台以上設置する	公衆電話 障害者用公衆電話 台・無 台・無	適・否
	①電話台	高さ70cm前後とし、下部に65cm程度、奥行き45cm程度のスペースを設ける ダイヤル及びプッシュボタンの中心の高さ90～100cm	高さ 下部スペース：高さ ：奥行き 高さ cm cm cm	適・否
	②周囲	十分なスペースを確保する	スペース 有・無	適・否
	③手すり等	手すり又は壁面を電話台の両側に設置	手すり等設置 両側・片側・無	適・否
	⑤標示	障害者に配慮した電話を設置した旨を表示	標示 有・無	適・否
	【ポスト】		ポスト設置 有・無	
	⑥ポスト	差し出し口の高さ105～125cm	高さ cm	適・否

整備 適用 の別	整備箇所	整備基準	設計概要	適合 状況
	【自動販売機・水飲み器】		水飲み器設置 有・無	
	②水飲み器	水飲み器の形式により下部にフットレストが入るスペースを設ける 給水栓は光電管式、ボタン式、レバー式とし、足踏み式のもの手動式のもの併設する 壁掛式の場合下部にスペースを設ける		適・否 適・否 適・否
	【コンセント・スイッチ類】			
	①形状・高さ	床上 40～120 cmに設置する スイッチ・ボタン類は大型で操作が容易なものとする		適・否 適・否
	②標示	必要に応じ点字標示を行う	点字標示 有・無	適・否
	⑳情報・誘導			
	【標示・誘導】			
	①案内板・標示板	大きく太い書体とし、地色とコントラストをつける 標示板は車いす使用者にとって見やすい位置・高さに取り付ける 照明は逆光又は反射グレアが生じないよう配慮する 必要に応じ音声等による誘導を行う 突出型の室名札を設ける場合は、下端 180 cm以上とする 建物概要等を示す掲示・案内板は、玄関付近に見やすくかつ通行の支障とならないよう設置する	音声等による誘導 有・無 突出型の室名札 有・無 下端の高さ cm 掲示・案内板 有・無	適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否
	②視覚障害者誘導用床材	濡れても滑りにくい材質		適・否
	【緊急時の設備】			
	②非常口・避難路	非常口には段差を設けない。やむをえない場合はスロープを設ける	段差 有・無 スロープ 有・無	適・否 適・否
	③防火戸	有効幅員 85 cm以上とし、弱い力でもあけることができるものとする 平常時閉鎖型の場合は開閉が容易なものとする		適・否 適・否